

航 跡

— 23 —

早稲田ヨットクラブ会報

昭和63年6月発行

発行者・事務局長 木村光成

編集・広報室 米田晴二

石田晋也

《強い早稲田》のために ご支援・ご理解を!!

— O B 総会報告

1988年度総会は2月19日永楽倶楽部で開催。

多くの大先輩以下約40名のOBが集まりました。

2年目を迎えた並木理事長は、小沢会長を頂点とし、400名のOBが一同となって現役学生を援助し、『強い早稲田』であり続けるため皆様に一層のご支援をお願いしたい旨の挨拶で始まりました。

続いて87年度事業報告、決算報告。88年度の事業報告及び予算案、新人OB紹介等と議事は進み懇親会へと移りました。やがて北島OBの結婚式出席のため遅れた小沢会長、加藤監督が到着し、会場は一層の盛り上りを呈しました。昨年喜寿を迎えられた、小沢会長は大いに飲み、語り、我々に檄をとばされ、益々意気盛んと見受けました。

* * *

途中、山崎OB (32卒) よりSBカレーを中心に多くの企業が協賛し、アメリカス・カップへ向け50~60億円の前算でプロジェクトチームが生まれ武村OB (32卒) が同チームのキャプテンであること、早稲田ヨットクラ



ブとして強力な精神的バックアップをお願いしたい旨の話があり、全員拍手により賛同しました。その後、会場は入り乱れ、恒例のエール、校歌と続き8時30分無事散会となりました。

ご 挨拶



理事長
並木茂士

昨年2月、杉山前理事長の後任の大役を仰せつけられ、この一年なんとか大過なく終えられましたのは、会員諸兄のご協力のおかげと心から感謝致しております。

毎月第3木曜日の理事会には多くの理事諸兄が参加され、熱意ある討論、事務局においてはOB間の連絡等大

変なご努力に心から御礼申し上げる次第です。

伝統ある早稲田ヨットの精神を後輩に伝える為、400名の会員諸兄が一同となってご指導、ご援助を賜りますようよろしくお願い致します。

毎回話題になる活動資金については、年会費や寄附、記念品販売等を度々お願いしており、常々心苦しく思っておりますが、早稲田大学ヨット部として年間の部活動費が約1,200万円必要であり、このうち学生達が1人あたり約30万円個人負担している現状であります。又本年度も全日本インカレが広島開催との事で、多額の資金が必要になるのではないかと思います。

* * *

杉山前理事長が問題提起された『金のかからない学生ヨット』実現のための提案、改革につきましては、今後とも早稲田が先達となって努力したいと考えておりますが、これが実現するまでには未だかなりの年月を要するものと思います。それまでの間、早稲田の伝統を守り、『強い早稲田』であり続ける為にも、OBの皆様のご理解、ご支援を切にお願いする次第です。

1987年度事業報告

現執行部がこの1年考えてきた事は、クラブの活性化のためには、出来るだけ多くのOBの皆様と顔を合わせる機会を多く作り、旧交を温めると同時に、卒直な意見の交換をし合える場を作る事が最も大切であるという事でした。その考え方の一環として、3月に移動理事会を大阪で開催し、関西在住のOBの皆様と忌憚のない意見の交換を行いました。又、7月には「夏の集い'87」を三戸浜で開催し、生憎の天気にも拘らず、50余名のOBのご参加を頂き、レースにパーティに興じると同時に、現役員とも親睦の度を深めました。

今更申し上げる迄もなく、我々OBを深く結びつけているのはヨットであります。我がヨット部の象徴である『稲龍』が建造以来22年を経過し、老朽化による傷みも激しく、ブイに舫われたままあまりハーバを出る事もない近年の状況に鑑み、330万円の費用をかけて大改修を行いました。改修は5月に完了、以後『稲龍を保存する会』のメンバーが中心になって運航計画を練り、相模湾に東京湾へと活発な活動を展開。8日には西原総長をお乗せして、波浮まで航跡を延ばしております。又、古きヨットマンにとっては懐かしいA級ディンギーは、今、関東の海から殆ど姿を消してしまいましたが、当部に残

っている2艇を生き返らせ、再び海に浮かべるため、『A級ディンギーを保存する会』を組織して修復を行い、早稲田ヨットマンの心意気を示しました。

最後に、クラブ財政の基盤となる年会費、寄附等の状況につきご報告致します。

年会費収入は160万円。早慶戦記念品売上げ利益161万円、全日本遠征(琵琶湖)に伴う奉賛帖寄附125万円、その他の寄附44万円、総額480万円の収入があり、このうちから420万円をヨット部に寄附致しました。

1987年度決算報告

(1987.1.1~1987.12.31)

収入の部		支出の部	
摘要	金額	摘要	金額
前期繰越金	682,883	ヨット部援助金	3,236,000
年会費	1,504,000	稲龍援助金	936,391
寄附金	1,684,578	会合費	1,620,305
WK戦記念品収入	1,610,000	諸会費	59,200
会合費	1,422,435	謝礼・慶弔費	106,660
雑収入	999	会報印刷通信費	418,360
		雑支出	19,170
		次期繰越金	508,809
合計	6,904,895	合計	6,904,895

注：(1)『稲龍を保存する会』及び『A級ディンギーを保存する会』の収支は、当クラブの収支には含めていない。
(2)寄附金には「奉加帳(976,000円)」及び「保険斂手数料(63,178円)」を含む。

昔の名前で出ています

A級ディンギーを保存する会・活動状況

『名艇A級ディンギー』を復元して2年目に入った。昨年は第1回関東A級ヨット選手権なるものを早・中・明3校で盛大?に行った。レース海面では最新型のクルーザーや小型艇が多数近寄って来ては、“アッ!! Aクラスだ”と、酩酊して名艇をあやつる我が強者共に尊敬と郷愁の眼差して声をかけられたのが印象的だった。本年は日大(ボンダイ)もぜひ仲間に入れて下さいとの事で4校で第2回大会を中大の当番で行う予定。

前夜祭は中大葉山寮にて大宴会が計画され、昔話に花が咲こうと今から楽しみだ。なんせ中年ヨットマン(いや初老ヨットマンじゃないかと誰かが云ったら、未だマストをイッテアログ出来るうちは中年ダー)でA級ディンギーを愛する輩の集りだから何が飛び出すかわからないけど、会員の皆様集って参加して下さい。

本年度の活動予定

- 4月3日 整備。艇体及びスパー類塗装。参加者一石井、是枝、舟岡、武村、加藤
- 5月22日 艇体内部ニス塗、ロープ、スパー類整備。
- 5月29日 進水、試乗。
- 6月5日 早慶戦観戦帆走。
- 7月中 4大学OB親善レース (第2回関東A級選手権)
- 7月31日 早稲田ヨットマン夏の集い。OBレース参加。

決算報告

収入の部		支出の部	
摘要	金額	摘要	金額
会費(42名分)	420,000	艇整備費(岡本)	400,000
事業収入(トレーナ)	317,000	セール代(大原)	120,000
寄附金	130,000	部品費(アフリカ)	29,600
受取利息	95	寄附(夏の集い)	20,000
		トレーナー仕入	165,000
		A級レース参加費	18,000
		整備材料費	83,104
		残金	31,391
合計	867,095	合計	867,095

千葉栄作 (30卒)

1988年度ヨット部役員・コーチングスタッフ

- 部長/矢頭敏也 教授 講師/横田豊(22)
- 監督/加藤文生(33) 助監督/大原義昭(53)
- 総務/中島健治(56) 岩田貴明(62)
- ヘッドコーチ/渡辺淳(53) 招待コーチ/小松一志
- 470級コーチ/北川邦弘(54) 芝崎俊行(57) 鎌田等(58) 黒田浩二(58)
- 佐々木陽(59) 小山良仁(60) 野本久(61) 松下益陽(62) 小宮聖則(62)
- 斎藤仁(62)
- スナイプ級コーチ/斉田治(53) 橋本一彦(53) 橋滋夫(56) 小池充郎(57)
- 森田朋愛(58) 市井久也(59) 小野芳夫(59) 瀬川洋二(60) 芹沢佳津也(61)
- 宮沢貢(62) 新里和成(62)
- 稲龍コーチ/酒井俊夫(53) 北川邦弘(兼任) 森田朋愛(兼任)
- 瀬川洋二(兼任) 斎藤仁(兼任)
- コーチ補佐/鈴木光宏(63) 渡辺誠二(63) 石井康夫(63) 大杉高司(63)
- 羽田晃(63)
- 現役 主将/川原康嗣 副将/茂木啓 主務/坂部臣
- 学連/長谷川正和 OB・稲龍/牧宏樹

1988年度事業計画

本年度は昨年度の実績を踏まえつつ、より充実したものとするべく努力しますが、特に今年初めて実施を予定しているものは「早稲田教職員向けクルーザー教室」があります。これは大学教職員組合、健保組合が主催し、教職員のレクリエーションの一環として実施するものですが、この企画に『稲龍』を提供し、一般の方にヨットに親しむ場を提供すると同時に、稲龍の維持、運営のための資金的裏付けを得ようとするものです。

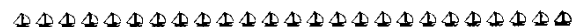
次に6年間使用した現レスキュー艇が老朽化し、安全性に問題が生じてきたため、今年是新艇買換えを予定しております。更に今年度の全日本インカレは広島で開催されることが決定しており、学生の遠征費用も相当な額にのぼる事が予想されるため、クラブとしても出来るだけ援助をしてやりたいと考えております。OBの皆様には口頭何かとご協力を頂き感謝致しておりますが、この趣旨をご理解頂き、1人でも多くの皆様からご援助を賜りますよう、よろしくお願い致します。

今年度の主な事業計画

- 1.. 新レスキュー艇の購入..... 2月
- 2.. OB名簿の改訂..... 5月
3. 関東10大学クラブ選手権(諏訪湖)..... 6月
4. 早稲田教職員向けクルーザー教室..... 6、10月
5. 夏の集い'88 (三戸浜)..... 7月
6. 実技応援(岩井)..... 9月
7. 4大学OBレース(当番校・早稲田)..... 10月
8. 秋の集い'88 11月
9. 会報「航跡」の発行..... 6、12月
10. 理事会(毎月第三木曜日、永楽倶楽部)

1988年度予算

収入の部		支出の部	
摘要	金額	摘要	金額
前期繰越金	508,809	ヨット部援助金	6,800,000
年会費	1,600,000	稲龍援助金	1,000,000
寄付金	1,500,000	会合費	700,000
WK戦記念品収入	1,200,000	諸会費	100,000
会合費	700,000	謝礼・慶弔費	150,000
紺碧V世特別寄付	3,800,000	会報印刷通信費	450,000
稲龍講習料	500,000	名簿印刷発送費	550,000
広告料収入	700,000	予備費	760,000
雑収入	1,191		
合計	10,510,000	合計	10,510,000



レスキュー新艇(紺碧V)進水・活躍

レスキュー艇の老朽化に伴い新艇の購入が急がれましたが、去る2月11日初声マリーナにおいて早稲田大学ヨット部新レスキュー艇『紺碧V世』が無事進水し、以後

の練習・各レースで活躍しています。

新艇購入にあたっては受益者負担の原則から、前レスキュー『紺碧III世』を使用したOB(58年~63年度)が中心となって負担。さらにその他OB有志の方々からもご寄附をいただき購入することができました。

OB皆様の暖かいご好意により進水できた『紺碧V』をヨット部の現役学生諸君は、細心の注意を払ってメンテナンスすると共に、将来『紺碧VI』購入の際には今回のような趣旨を彼等が中心となって引き継いでくれることを約束して呉れました。

今回の進水にあたり、ご寄附いただいた方々に紙面をおかりし厚くお礼申し上げます。

小野芳夫(59年卒)

無事進水し活躍している『紺碧V』の購入費用は、当初57年度以降卒業の若手OBの寄附でということ、既に330万円が集まっていたが、**或る関係者**(ご本人の希望により公表しません)から450万円の全額寄附のお申し出があり有難くお受けすることにしました。

330万円についてはヨット部発展のための有効利用法を今後検討します。あらためて厚くお礼申し上げます。(理事会)



1988年度レース日程(6月以降)

6月4(日)5(日)	早慶戦	三戸浜
6月11(日)12(日)	対同志社戦	三戸浜
8月23(火)	全日本インカレ開会式	
24(水)	〃 個選	広島
25(木)26(金)27(日)	〃	
10月9(日)10(日)	日・中・早三大学戦	森戸
10月29(日)30(日)	秋季関東インカレ	森戸
11月12(日)13(日)	秋季早慶戦	三戸浜
11月26(日)27(日)	秋季東京六大学選	三戸浜



家族連れで全員集合「夏の集い'88」

恒例の夏の集いを下記のとおり開催致します。昨年度は、梅雨が明けきらず、天候に恵まれませんでしたが、今年は、梅雨も明けて、子供達も夏休みに入ってからという事で、7月31日に実施致します。お酒も料理もたっぷり用意しますので、是非ご家族連れでお越し下さい。

記

日時：7月31日(日)

OBレース 10:00~

パーティ 13:30~

場所：三戸浜・小島合宿所 ☎0468-88-0262

神奈川県三浦市初声町三戸924

(京浜急行「三崎口」下車、徒歩20分)

会費：5,000円(同伴者 3,000円)

*なお、道路が大変混雑しますので、お車はご遠慮下さい。

関東インカレ観戦記

スナイプ1位 470 5位 総合2位

土肥丈志 (36卒)

本年初の公式イベント関東学生ヨット春季選手権大会だけに現役学生諸君の意気込みも凄まじく、正月の合宿開き以来対関学戦、六大学対抗戦を含め毎週練習に次ぐ練習を重ね、葉山森戸海岸沖での関東インカレに臨んだ。

わが早稲田は2レースまでスナイプ級1位、470級4位、総合2位と好スタート。

2日目、今日こそは1位日大を抜きトップに躍り出るとファイト満々第3レースに臨んだが残念ながら無風のため、2日目の2レースは中止となり、翌8日に繰り延べとなる。

翌8日の朝を迎えた森戸海岸沖は、昨日とは打って違って暗大ながら強風。早稲田全艇は好機到来とばかり勇んで15米を越す北風の中、レース海面へとスタート。

発艇海面では沖へ出る前に沈をしてしまう艇や、機装トラブルに見舞われる艇等で混乱し、これこそ強風の早稲田のチャンスと応援の我々全員は期待しレースを見守る。

レースは時折り20米近い北のプロローが吹く中で敢行され、キャプテン川原君の活躍にスナイプ陣は1位の座を揺ぎないものとしたが、5位に終わった470陣は日頃の練習の力が発揮できず残念ながら両クラス合せ総合2位に終わった。

しかし、我が早稲田の伝統に恥じないシーマンシップを全選手が出し切り、他校が沈艇続出、中には某大学の如くどうしても救助できず、丁度現場に居合わせた加藤監督が乗員の体力の限界を判断し、艇体の放棄を指示せざるを得なかった様な状況の中で早稲田艇は自艇の始末は全艇自分達でつけられた。この力は充分評価されると思う。

レース終了後、葉山合宿所での打上げ会では小沢会長を迎え、会長の『俺の80歳の誕生日までに優勝して呉れ』との激励の言葉に参加者全員が、広島での全日本インカレに向けて新たなファイトを燃したのは云うまでもない。

加藤監督からも、沈をとしては絶対に上位に食い込めないとの強い指摘があり、全部員明日からの目標の一つにおいたと思う。

頑張れ ワセダ!! 全日本に向け全OBの力を挙げて応援しましょう。

助監督 大原義昭

毎年ゴールデンウィークに恒例となっている関東インカレが葉山森戸海岸沖で行われた。

4月29日から5月3日までの予戦では両クラス共トップで通過し、決勝レースに挑戦。

決勝は5月6～8日の3日間で計5レースの予定であった。

初日、2レースを消化しスナイプ1位、470 4位。総合は日大に続き2位となった。

2日目は無風のためノーレースとなり、最終日に3レ

ースを行う決定が下された。

部員、OBのムードは最高で、最終日の逆転優勝への期待で、雰囲気はいやが上にも盛り上がった。

翌3日目は、北東の強風下で行われ、本部船で風速22Mを記録するサバイバルレースの様相を呈した。

スナイプは強風の本領を発揮し、さらに2位を引き離したが、470は沈も重なり5位となった。結局この日は、艇体放棄する学校も出て、決勝は3レースのみで成立し、総合2位となった。

今年はレスキューを新たに購入し、主将の川原以下部員のまとまりも良く、また前回のレスキュー購入時も関東インカレ優勝。全日本ではスナイプ2位になるなど買い換え時は不思議と好成績をおさめている。

8月の広島での日本インカレでは非常に楽しみなチームになってきている。できるだけ多くのOBの皆様はその強さと実力を見ていただきたいと思います。

~~~~~

## 全日本インカレに向けて

主将 川原康嗣

OBの皆様には口頃より多大なるご支援・ご指導をいただきまして有難うございます。

我々現役部員は強いワセダとなるべく、日々練習に励んでおります。

先日行われました関東インカレは、470級5位、スナイプ級1位、総合2位という成績でした。総合1位は残念ながら日大にもっていかれました。

わが部は他の上位校に比べ、経験者も少なく技術的に若干劣るかもしれませんが、さすが部員全員で真剣に取り組み、チーム力で、日大、同志社を倒し、広島での全日本インカレを奪いたいと考えております。

部員数も現在36名と多くなっています。唇の厚い強いチームになるぞ!と頑張っております。

## 関東インカレ 順位

| (470)    |          | (スナイプ)   |  | (総合)     |  |
|----------|----------|----------|--|----------|--|
| 1. 日 大   | 1. 早 稲 田 | 1. 日 大   |  | 1. 日 大   |  |
| 2. 慶 応   | 2. 中 央   | 2. 早 稲 田 |  | 2. 早 稲 田 |  |
| 3. 中 央   | 3. 日 大   | 3. 中 央   |  | 3. 中 央   |  |
| 4. 明 治   | 4. 慶 応   | 4. 慶 応   |  | 4. 慶 応   |  |
| 5. 早 稲 田 | 5. 上 智   | 5. 明 治   |  | 5. 明 治   |  |
| 6. 関東学院  | 6. 明 治   | 6. 関東学院  |  | 6. 関東学院  |  |

## 会費とご寄附のお願い

振 込 先：第一勧業銀行 日本橋支店  
(普)038-1445739  
早稲田ヨットクラブ 並木茂士



シーズンに入り、現役諸君も既に真黒になって活躍。理事長並木OBの月光も先日の沖縄・小笠原レースで優勝。益々盛り上がっています。各OB諸君も“夏”のつどい'88"に積極参加しましょう。とに角、海であいましょう。